

九日

7・2 水

出演者紹介

落語

立川笑えもん

落語

立川平林

落語

立川志の春

落語

立川キウイ

漫才

家族チャーハン

落語

春風亭昇太

— 仲入り —

口上

落語

立川談笑

バイオリン漫談

マグナム小林

落語

立川吉笑

立川吉笑
真打昇進披露興行
in 高円寺

いよいよこの披露目もあと2日となった。連日舞台裏の撮影だったり物販だったりでフル稼働してくれている。打ち上げも毎日付き合ってくれてありがたい。弟弟子には本当は今日みたいに毎日高座に上がってもらえたら良かったのだけど、番組編成的に難しく。自分がやりたい落語を全力でやる。それを大勢のお客様が楽しんでくださる。そんな成功体験をこれからたくさん積み上げていって欲しい。

二ツ目の頃、突然安来節(どじょうすくい)を習い始められた。全国大会で優勝されたことがあるように、今ではすっかり名手で、高座の後に踊られると必ず客席が盛り上がる。他にも談志師匠の扮装をしながらゆっくりと高座に上がったり、とにかくあの手この手を使って少しでもお客様に楽しんで頂こうと努められるサービス精神の塊。後輩にも気さくに接してくださるので楽屋でお会いするのが楽しみな先輩。

まだ前座だった頃、浅草にある喫茶店での会で二ツ目になったばかりの兄さんの『短命』を聴いて度肝を抜かれた。こんなこと書くのは失礼かもしれないけど、まるで志の輔師匠の短命を聴いたような気持ちになったのだ。正しくは、僕は志の輔師匠の短命を聴いたことがないのだけど、きっとこんな感じなんだろうなあと感じる高座で。途中で部屋に婆さんが入ってくるクダリは、先に思いついたかったと嫉妬した。

前座の頃、よく会で使ってもらっていた。「吉笑くん、今日も悪い大人になろうよ」という掛け声を合図と一緒に帰りの電車で缶チューハイを飲んだっけ。真打昇進を機にまたお酒を飲むようになったから、またキウイ師匠と悪い大人になりたい。キウイ師匠との会の打ち上げで、たまたま一緒に水道橋博士とのご縁で現在落語論の連載が始まったから、今の自分を形作る大きなきっかけを下さった方でもある。

今回の企画で唯一、面識がない状態でオファーを出したコンビ。去年のM-1の予選動画で心を掴まれファンになった。何というか、システムに頼らずボケの強度だけで積み上げていくそのストロングスタイルっぷりに色気を感じる。いきなりこんなオファーが来てお二人は驚いたことだろう。にも関わらず快くご出演頂けて嬉しい。先日のABCでもしっかり結果が出ていたように、もうM-1本戦リーチ状態のコンビだ。

ソーソーシーをやっている身としては、やはりSWAの存在は偉大過ぎて、本当だったら新作の文脈においては若手の自分達に利があって然るべきと思うけど、相変わらず追い抜くどころか差が縮まっている気すらしない。今回、直接出演のお願いをするために昇太師匠の独演会へ伺った。OPトークから落語まで、自由に、本当に楽しそうに高座を勤められている姿を見て、自分もこんな風に独演会をやりたいと思った。

二ツ目になってしばらくするとだんだん師匠と会わないことが増えてきた。前座時代は本当に週3回から4回、晩御飯をご一緒させて頂いていた。その時に師匠からかけて頂く色々な言葉が刺激や原動力になっていた。弟弟子も増えて、全員で食事をするのは大所帯になりすぎることもあって食事はごく稀になった。一番弟子として師匠を独り占めできていたあの頃はとても幸せだったんだと初めて気づいた。

「落語立川流の幻の寄席を作ろう」というコンセプトを決めた時に、元々立川流にいらした方にもお声がけしたいと思った。特に師匠・談笑と付き合いのあった方にはご出演頂きたいと。六日目の談幸師匠もそうだし、今回のマグナム小林先生もそうで。立川流には色物がいないから、たまにホール落語などで先生とご一緒すると、どんな状況でもお客様を明るく楽しい気持ちにさせるその芸に惚れ惚れする。

二ツ目内定をもらった数ヶ月後に談志師匠がお亡くなりになった。今後の立川流がどのような動きになるか予想もできない中「ひとまず吉笑の昇進は保留にしよう」という話が誰からともなくあがったらしい。一方で「頑張ってるのだから昇進させてやっていいんじゃないか」と後押しして下さった方もいたようだ。話し合いの結果、無事に僕の昇進は決まったけど、それ以降は前座最低3年ルールが爆誕した。

テキスト: 立川吉笑

高円寺のこと

11

五ノ古久

前回からの続き。ある年の高円寺演芸まつりの打ち上げでいつも以上に酔っ払った僕は2月の高円寺を上半身裸で徘徊していたらしい。たまたま目撃した知り合いがタクシーに乗せてくれたようだ。と、もはや記憶は何にもなくて全て後日色々な方から聞いた話の断片をつなげて把握できた伝聞形での全体像だ。

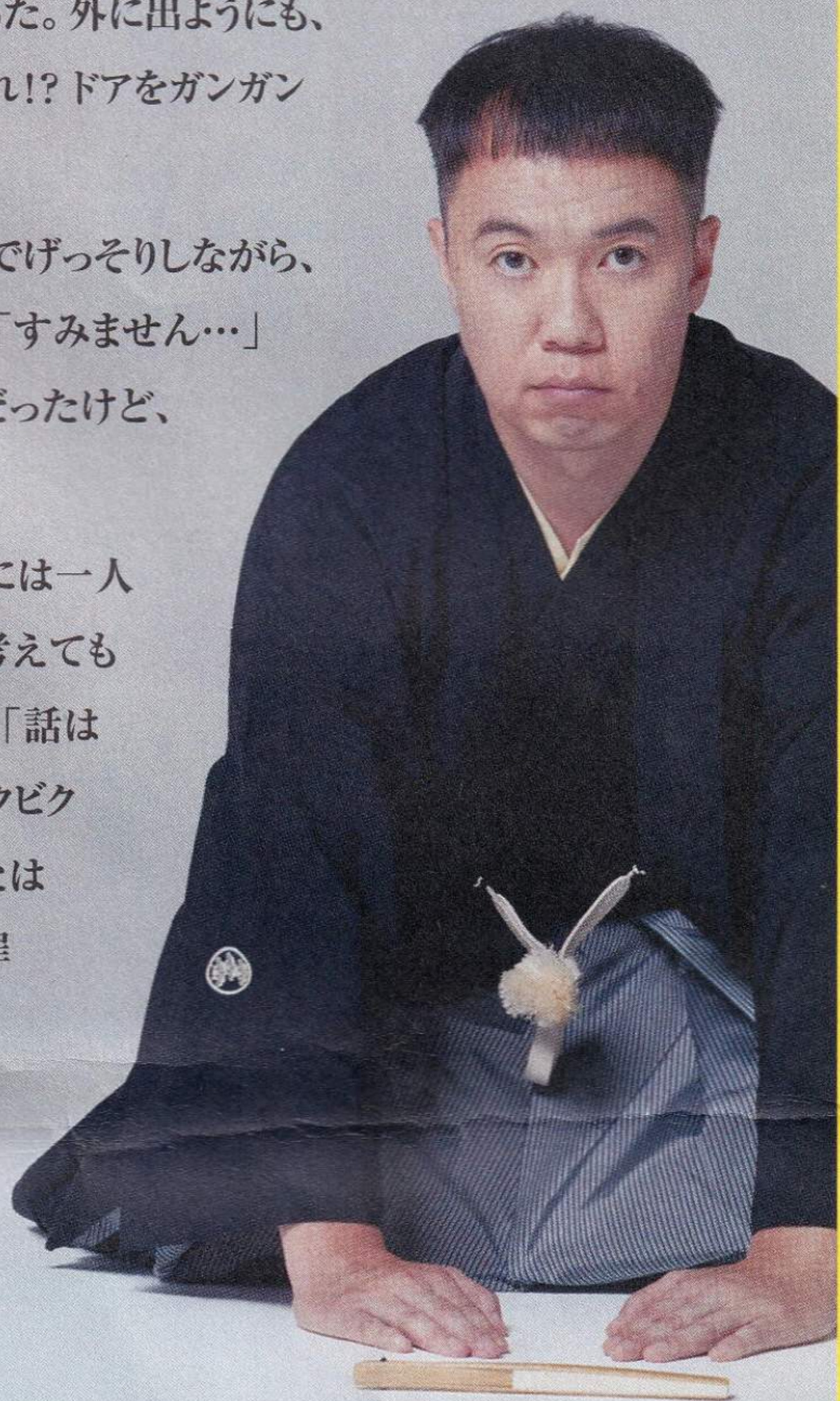
あの夜僕を乗せてくれたタクシー運転手さんの証言によると、乗るなり「どこにでも行ってください」と言ったそう。「それは困ります。どこに行きますか?」「本当にどこにでも行ってください」と何回か押し問答をした末に困った運転手さんが「だったら交番に行きますか?」と提案したら「お願いします」となぜか僕は同意したそう。タクシーは成田東の交番前へ。料金を払って、そのままふらふらと交番に吸い込まれて行ったそう。

そんなことがあったとは知らず、あの夜、パッと目覚めるとそこは交番の中だった。焦った。外に出ようにも、3畳くらいのスペースで外から鍵がかかっているのか、全然ドアが開かない。なんだこれ!? ドアをガンガンやって、なんとか外へ出ようと頑張ったのを覚えている。

次に気がついた時にはなぜか自宅の布団の上でいつものように寝ていた。二日酔いでげっそりしながら、「昨日はすみませんでした」と一緒に過ごした人に謝りながら「酒には気をつけなよ!」「すみません…」と、いつものようなやりとりをしていた。ここまでは恥ずかしながら、まあよくある出来事だったけど、話はここから急展開する。

あの夜から一週間ほど経ったある日の昼下がり、家のチャイムがなった。出るとそこには一人の警官が立っていた。「覚えてるな? 今から来てもらうから」。血の気が引いた。どう考えてもあの時の件だ。「…あのお、僕、なにかやっちゃいましたか…?」恐る恐る聞いても、「話は派出所で聞くからついて来て」と冷たいなされた。一体何をしておしてしまったのかビクビクしながら自問自答した。僕は暴力的な衝動はないから酔っ払って誰かを殴るなんてことは絶対ないと思うけど、例えば路上に停まってる自転車を蹴り飛ばす、みたいな器物損壊罪のような線は完全に無いとは言い切れない。とにかく落語家であることは伏せて、無職の設定でいこうと覚悟を決めた。師匠や立川流に迷惑はかけられない。

そんな風に思っていたのを見透かすように、交番に入るやいなや「落語家なんだろ?」と警官に言われた。なぜかバレてる。激しい動悸に苛まれながらこれからどうなるのだろう? と不安に思った。つづく。



明日の番組表

7・3 木

落語 立川笑二
落語 立川らく兵
落語 立川らく次
落語 立川晴の輔
漫才 ひつじねいり
落語 立川談春
真打昇進披露口上
(吉笑、談笑、談春、晴の輔)
司会: らく次
落語 立川談笑
太神楽曲芸 鏡味味千代
落語 立川吉笑



本日のひとこと

このパンフレットも残すところあと1日分となった。連日、口上の直前までかかって必死で書いてきた。それをサトリデザインさんが必死でデータにして下さって入稿。1日で印刷所が刷ってくれて、会場へ発送。配布する当日に届いて、それを後輩が折ってくれて、お客様の手元に届くという。本当はもっと早くに用意しておけばよかっただけの話なんだけど、日替わりパンフレットを作ろうと思いついたのが初日を迎える少し前だったから、仕方がない。いまは6/30、本番10分前。今日はたくさんの方の後輩が遊びに来てくれて楽屋が賑やか。

高円寺おすすめスポット

青天井

2018年、骨折をきっかけに禁酒する直前は、ある程度自由に使えるお金も増えた頃で夜な夜な飲み歩いていた。特にお気に入りの店だったのは南阿佐ヶ谷にある『青天井』という居酒屋。焼き鳥バージョンの青天井と、魚バージョンの青天井が隣り合わせに建っていて、どちらも美味しいし良い店だったけど、どちらかと言えば焼き鳥の方によく通っていた。特にこの煮込みが絶品で、阿佐ヶ谷にあるコケッコという店のちょっと甘味の強い煮込みと双壁だった。

当時は「煮込みはここ」「正肉はここ」「つくねはここ」と自分なりの焼き鳥の最強布陣リストを作っていた。鳥スープが最強だった店についてはこのあと書く。記憶がないけど、たぶん骨折した夜も最初はこちらで飲んでたんじゃないだろうか。友達と青天井で飲んで、その後、ふらふらと青梅街道を歩きながら成田東のコンビニで酒を買い込んで、部屋飲みするのがいつものルートだった。ペロペロになった夜中、むくむくと仕事意欲が湧いた後で、近くにあった作業場に行くのも当時の定番だった。その際に転倒して右足首を骨折したのだけど、その場所は昨年末に出したCDのジャケット撮影地に採用した。

高円寺の思い出スポット

串兵衛

今はなき高円寺の焼き鳥屋。pal商店街とルック商店街の境目、ビレバン前の細い道に面した地下に降りていく店。この店はとにかくお通しで出てくるスープが絶品だった。焼き鳥屋のメニューで良くある鶏ガラ? で取ったスープが、とにかくこの店のは濃厚で、旨味がうんと詰まっていて、とんでもなく美味しいのだ。焼き鳥もさぞかし美味しいのだろうと期待しながら食べると、こちらは案外普通で「???」というも思ったものだった。この美味すぎるスープに

店側もプライドを持っているようで、複数人で飲み会をやる時「何人か後から合流します」と伝えたら、なぜか全員が揃うまで絶品スープを出してくれなかった。もう1回あの絶品スープを飲みたいのだけど、いつの間にか閉店してしまった。串兵衛からすぐ近くにある『紅い花』に行くのが好きだった。こちらはおしゃれなバーのような内装なんだけど、抜群に美味しい手打ちそばが食べられる店。しかも夜中3時くらいまで開いているという。当時は本当に連日飲み歩いていた。その時間を創作活動に充てていたらもっと芸が伸びた気がするけど、一方でそんなに単純じゃないのもまた芸だと思っている。

撮り下ろし MOVIE

作業場でゆるっと喋りました!



(17分48秒)



〈今後の主な予定〉

ロビーでチケット販売中!

立川吉笑 落語会 in 高円寺 『真打の日常 #0』

出演:立川吉笑

日時 2025年12月23日(火)
18時45分開場 19時15分開演

会場 座・高円寺2

チケット 前売 3,000円(全席指定)

来年から真打としての拠点の会を
座・高円寺で始める予定です。
そのプレ公演になります。
披露目の諸々が落ち着いて
じっくり落語と向き合える
日常に戻っている予定です。



ソーゾーシー TOUR 2025

東京
公演

日時 2025年8月17日(日)
14時開演

会場 かめありリリオホール

チケット 前売3,500円(学生・25歳以下3,000円)

真打昇進披露公演 @横浜にぎわい座

出演:立川吉笑、立川談笑、立川笑二、〈ゲスト〉柳家三三

日時 2025年9月5日(金)
18時30分開場 19時開演

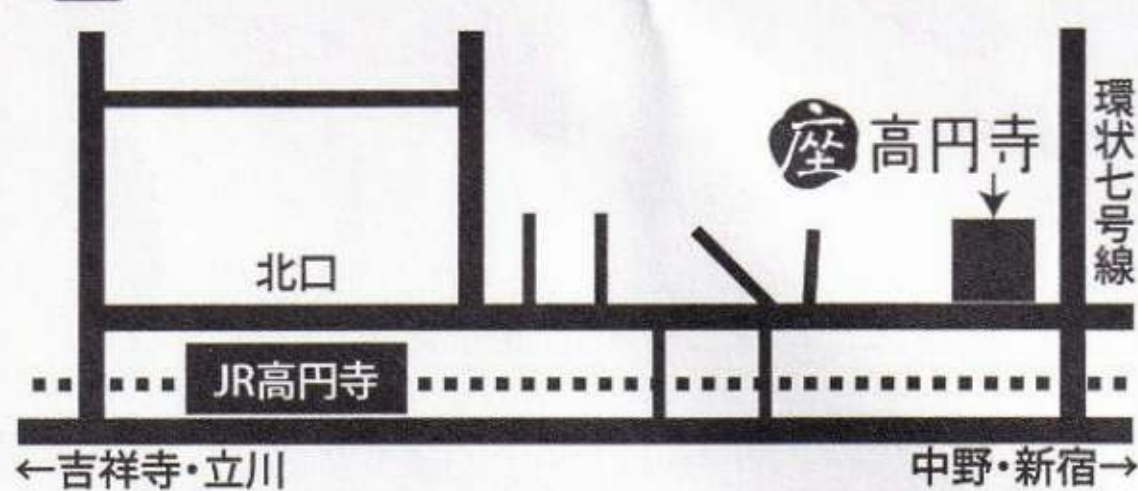
会場 横浜にぎわい座

チケット 前売3,200円(全席指定)



立川吉笑
真打昇進
披露興行

会場 座・高円寺1



〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-1-2
TEL 03-3223-7500 (JR高円寺駅 北口徒歩5分)

【チケット】3,500円(前売)

【チケット取扱い】立川吉笑BASE <https://kisshou.thebase.in>

【手売りチケット】立川吉笑出演落語会で手売り販売いたします。
立川吉笑公式Xをご確認ください。

【お問い合わせ】立川吉笑GROUP TEL 070-1323-5031 <http://tatekawakisshou.com>

以下のサービスは劇場で承ります。お申込・お問い合わせは座・高円寺チケットボックスTEL03-3223-7300まで。

*車椅子スペースをご利用の方は、前日までにお申し込みください(定員あり)。

*障がい者手帳をお持ちの方は、座・高円寺チケットボックスでご予約いただくと1割引になります。

*託児サービス(託児協力:NPO法人ちいきちいき) 6月28日昼と7月3日昼のみ、定員あり、
対象年齢1歳~未就学児、1週間前までに要予約、料金1,000円。

